わが家のミカタ

# 同郷の若者を育む「道場」。飲んで食って議論して

■首都圏の主な学生寮

| | 入寮生の出身地 | 所在地 |
|---|---|---|
| 北海寮 | 北海道 | 東京都練馬区 |
| 会津学生寮 | 福島県会津地域。保護者が同地域出身者の場合を含む | 文京区 |
| 上毛学舎 | 群馬県 | 世田谷区 |
| 富士寮 | 静岡県 | 文京区 |
| 明倫学館 | 富山県、石川県 | 文京区 |
| 尚志館 | 兵庫県 | 渋谷区 |
| 養徳学舎 | 奈良県 | 文京区 |
| 有斐学舎 | 熊本県 | 埼玉県志木市 |
| 同学舎 | 鹿児島県 | 東京都日野市 |
| 南灯寮 | 沖縄県 | 東京都狛江市 |

全国学生寮協議会などの資料から

## 学生寮、存廃の分岐点に

同郷の学生たちが一つ屋根の下に集い、飲んで食って絆を結ぶ。とかく人間関係が薄くなりがちな都会暮らしですが、東京都内の学生寮には、孤独になんてなりようのない濃い人間関係が残っていました。でも建物の老朽化とともに、いま寮は存続の岐路を迎えているようです。（石村裕輔）

飲み会が始まった時には午前0時を過ぎていた。玄関を入ってすぐのホールに学生が集まり、自分で作った卵焼きを並べたり、ビールをついだり。そばの黒板にこんな張り紙があった。

「わが寮は世界に冠たるもの！　それは『哲学舎』であるからだ」

ここは東京都文京区にある奈良県出身の男子学生寮「養徳学舎」。運営する奈良県奨学会は1917（大正6）年に発足。90年間に約1400人が巣立った。

昔の寮は57年に焼けた。原因は漏電とされ、翌年建てられたのが今の寮。鉄筋コンクリート3階建て全46室。6畳半の2人部屋が26室あり、定員72人だが、今の寮生は東大や早稲田大など12大学の28人だ。

部屋の一つに入ると、壁に「禁煙」「国家権力」などの文字。「以前の部屋の主の落書きです」と慶応大4年の佐々木優さん(22)は言う。東京行きは親に反対されたが、日本の中心を見ておきたいとの思いを捨てきれず、お年玉で受験料を払った。高校の担任に強く勧められたのがこの寮。親の説得材料にもなった。

それもそのはず寮費は月1万5千～2万5千円の安さ。しかも地下鉄駅から徒歩8分の好立地だ。家賃だけで10万円近い友人も多く、うらやましがられる。

だが、築50年の「風格」はたてじゃない。ホールのソファはスポンジむき出し、小便器の一つは使用不能。トイレや風呂などの掃除は全員の当番制だ。

### 押忍！　青春の寮ライフ

昔は先輩たちの名前や大学、学部をすべて覚えるまで大声で何度も自己紹介させられた。さすがに「大声」はなくなったが、入寮者は減り続け、今年初めて寮生が30人を切った。

寮を管理する舎監の二村吉光さん(80)は「礼儀や自立心が養われ、人間形成の道場になるからと、以前は親が入れたがった」と振り返る。今は古い建物やエアコンもない部屋を見て、親の方が敬遠するという。

でも、寮生たちは「入ってよかった」。夜を徹してどうやってよい寮にするか議論したり、クラブが忙しくて寮の行事に参加できない仲間を気づかったり。OBの松谷朗さん(31)は「きちんと相手の話を聞き、必要な場面で自分の意見を言う。そんな姿勢が徹底的に磨かれた」と話す。

松谷さんは旧自治省に入り現在は高知県財政課長。今も年に数回寮の仲間と飲む。銀行員やマスコミなど多様な先輩も食事などに誘ってくれる。「視野が広げられた。寮は財産です」

そんな寮も06年、激しい老朽化で建て替え問題が浮上。財政難にあえぐ奈良県は、識者やOBらによる外部の「あり方検討会」を設け、廃止か存続か、建て替えの場合はどう費用を抑えるか話し合った。

検討会で県は、定員を大きく割っていることなどを説明したが、委員からは「人間関係が希薄な時代だからこそ強い絆が求められているのではないか」との指摘も。役割を終えたとみる声はほとんどなく、結論は「県出身者が集う人材育成の場は必要」だった。

県は民間業者に寮とマンションなどを建設させ、マンション部分の借地料を寮を買い取る費用にして建設費を節約する方針だ。

全国学生寮協議会によると、首都圏の加盟寮は44。旧篠山藩主青山家が郷里の学生を起居させて始まった兵庫県出身者の学生寮「尚志館」など伝統の寮もある。完全個室の寮などでは応募が募集人員を大きく上回る場合もあるが、この10年で6寮が廃止され、1寮が廃止予定だ。

学生寮は、昭和30年代の初め、当時の文部大臣の提唱で多くの県が国の助成を受けて次々と建てたという。寮長の一人は「どの家庭も昔は経済事情が厳しく、東京の住宅も不足していた。寮に入りたくても希望者が多くて入れないこともあった。時代が変わったんですね」と話した。

「乾杯！」。毎週のように金曜の夜は飲み会がある＝東京都文京区の養徳学舎

ご感想は、ファクス03・5540・7354　メール wagaya@asahi.com